

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	桂川・支川対策特別委員会	会議場所	第3委員会室
		担当職員	佐藤
日 時	令和元年6月27日(木曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 22 分
出席委員	◎西口純生、○竹田幸生、小川克己、並河愛子、木村勲、藤本弘、菱田光紀		
出席理事者	【まちづくり推進部】並河部長、関事業担当部長 [都市計画課]関口課長 [桂川・道路整備課]澤田課長、小西広域事業係長		
出席事務局	山内事務局長、鈴木議事調査係長、佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者1名	議員1名(松山)

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開議 (西口委員長あいさつ)

(事務局日程説明)

[まちづくり推進部入室]

2 案件

- ・河川改修の状況と今年度の計画について

[まちづくり推進部長あいさつ]

[桂川・道路整備課長より資料に基づき説明]

1 3 : 5 0

[質疑]

<並河委員>

P 1 3、桂川右岸の堤防が弱いということで調査していたが、結果はどうなったのか。

<桂川・道路整備課長>

昨年度に、堤防の上から電波等を当てて、中に空洞がないかどうかの調査を京都府が実施した。結果は、怪しいところが見つかったので、その地点について、ボーリング調査を実施している。その解析をもって、どのように強靱な堤防にしていくか工法を検討していく。

<西口委員長>

可動式止水壁、パラペット、可動式特殊堤防等、京都府は呼び方を統一していないのか。

<桂川・道路整備課長>

可動式特殊堤で統一してもらったらいい。

<まちづくり推進部長>

国の資料も統一がされていないので、一度国に確認しておく。

<西口委員長>

一の井堰の可動式井堰が完成したら、全ての霞堤の高さを一気に上げてほしいと要望してきたが、亀岡市としての考えは。順次上げていくことになるのか。

<桂川・道路整備課長>

京都府から聞いていると、可動式特殊堤にすると1メートルの嵩上げができる。あと残されているのが、一の井堰の改築や派川の改修、中之島の掘削や渡月橋の下の掘削等である。下流の治水安全度が向上することによって、段階的に嵩上げをしていくと聞いている。

<西口委員長>

時間がかかるということか。

<桂川・道路整備課長>

中之島の掘削の協議が整っていないので時間がかかるかもしれないが、段階的に嵩上げをすれば、治水安全度は向上するので、早くやってもらうように、国・府に働きかけていく。

<藤本委員>

P14、北町橋から上流の整備計画はどうなっているのか。

<桂川・道路整備課長>

中央橋下流付近まで、改修の工事区間として京都府から示されている。いつ頃になるかは不明だが、下からやっていくのが基本であり、橋が終われば上に進んでいく。

<藤本委員>

P15、春日橋の支障物件の交渉を今年度から始めるとあったが、春日橋・春日小橋の改修はいつ頃になるのか。

<桂川・道路整備課長>

交渉は2年ほど前からやられている。占用物件がいろいろと多いので、占用者が集まり移設場所等協議をされている。架設時期等について、明確に京都府より回答がない。亀岡市の支障物件の上水・下水もあるので、協議を継続的に行っている。

<藤本委員>

具体的に目途が立っていないということか。

<桂川・道路整備課長>

明確にいつかは聞かされていない。

<西口委員長>

今難航しているのは、クニッテル通りをストップさせるので、仮設道路をどうしていくかである。随時交渉をしてもらっているが、借地等があり難航している。河川整備は、人命にかかわるので、早期促進をお願いしたい。

<菱田委員>

雑水川だが、文化資料館の横から急に広がる。下流に土砂が堆積しているので、亀岡市からも南丹土木事務所に、早急に浚渫してもらうように要望してほしい。

<西口委員長>

質疑は以上とする。この後、引続き現地視察を行う。

[まちづくり推進部退室]

14:04

3 その他

<西口委員長>

現地視察の前に、今後の取り組みについて協議したい。

支川の課題もこれから、検討・調査をしていく必要があると思う。地元の人でないとわからないこともたくさんあるので、意見を聞いて、整備促進を図っていかねばならない。

<藤本委員>

一の井堰左岸の可動式特殊堤防ができて、亀岡の霞堤の嵩上げができていく。やっと目に見える形で進んできた。30年計画は長すぎるので、危機感を持って進めていただきたい。

<西口委員長>

私も今まで、厳しい言葉で申し入れをしてきた。歴史的に京の都を守るために、上流を犠牲にしてきた。この時代に未だ整備されず置いておくことが許されない。水害経験者として強く思う。京都府も可動式止水壁の工事がうまくいけば、今年度末には、工事の発注をかけていこうというところまで来ている。優先順位を決めながら、一日でも早く土砂の堆積撤去から始めてほしい。

<菱田委員>

千代川から保津川下りの計画が打ち出されているので、うまくいけば、浚渫をしっかりしてもらえるとということが期待できるが、その計画がある程度固まった時点で一度話を聞き、河川環境がどう変わっていくか知りたい。

<並河委員>

千代川から保津川下りのところまでどうして行くのか心配している。

<小川委員>

他の雑水川を含めて、視察に行けたらいいと思う。大井町の右岸整備対策について、情報提供いただきたい。

<西口委員長>

嵩上げすると、内水処理の問題が出てくるので、由良川水系等内水面の処理をやっている場所へ視察は行けるのか。

<議事調査係長>

執行部と調整して、情報を入れて他の自治体に視察に行けるように可能な範囲で対応していきたい。

<西口委員長>

霞堤を1メートル嵩上げしてもらうことはいいが、内水処理の対策もついていかないと、バランスが崩れて大変なことになる。同時進行でやってもらうように強く京都府に要望して、亀岡市もついていけるように努力してもらわなければならない。排水能力も各場所によって大きく違う。1カ所1億円以上かかると京都府が試算を出している。

<木村委員>

堆積土砂の問題だが、国道9号の上流が堆積土砂によって、洪水であふれる。地元の人でないとわからない。情報収集して、堆積土砂の撤去を考えていきたい。

<西口委員長>

河川によって環境が違うので、委員会からも指摘して、早期に堆積土砂の撤去をしてもらえるようにしていく。

<竹田副委員長>

内水面のはけ口を何とか考えてもらわなければならない。今後は、もう少し、年間

の委員会の回数をふやして、嵩上げの問題も常時出てくるし、地元との関係も視野に入れ、特別委員会の活発化をお願いする。

<西口委員長>

これらをまとめて次の委員会で検討していく。本川・支川整備を含めて生命・財産にかかわることなので、今後気を引き締めて問題解決に向けて取り組んでいきたい。強い思いを持っているので協力・支援をお願いする。

現地視察について、2時30分に玄関前に集合願う。

～14:22